

特別
対談介護人材を呼び込むためには
より一層の努力が求められる

武内和久 × そのだ修光

マッキンゼー・アンド・カンパニー
シニア・クライアントアドバイザー全国老協協常任顧問・理事
参議院議員

今回は、マッキンゼー・アンド・カンパニーのシニア・クライアントアドバイザーで、全国老協協の理事に新たに就任された武内和久氏をお招きし、介護業界における人材不足問題の打開策などについて意見を交換しました。厚生労働省の福祉人材確保対策室長から民間に転じた武内氏のお考えは示唆に富んだものとなっています。

そのだ まったくその通りです。私も鹿児島県の社会福祉法人の理事長として、離職者の問題には頭を悩ませてきました。

ちょうど7年前、「このままではいけない。利用者様の尊厳を守るには、まず職員の尊厳を守る」とから」と考え、改革に取りかかりました。現場の意見を吸い上げ、一つひとつ変えていくための努力を重ねた結果、離職者は激減し、新規採用も増えました。

武内 素晴らしいお話です。最初に理念をしっかりと定め、職員に寄り添うことで離職率が下がっていく。これはすべての事業者の方にとって、出発点だと思います。措置時代の半官半民的な意識からうまく抜け出し、新しい経営人材マネジメントに移行できたところだけが生き延びていけるはず。職員個々に成長実感を得ようとしたのか、そして、そ

れに対する報酬をどう考えるのかが基本でしょう。人事・採用・育成・定着と、大変に手間はかかりますが、避けて通れません。すべての産業で人材の奪い合いが激化するなか、介護業界に人材を呼び込むためには、より一層の努力が必要だと思います。

そのだ そこで大きな問題となるのが、職員の処遇改善の問題です。チームケアで成り立つ介護現場で「介護職だけに限る」では、職員の理解が得られません。

武内 介護業界に限らず全国老協も、厚労省から投げられたボールにどう対応していくか、やや受け身のところがあがるように以前から感じていました。介護は今、本質的な部分が再定義されるタイミングにきています。業界の将来像をしっかりと打ち出していける集団になる必要があるでしょう。

そのだ 私たちにとって大事な提言です。積極的に提案をしていく組織に生まれ変わろうと皆一丸となって頑張っていけますので、ぜひ力を貸していただきたいと思います。

そのだ 介護保険制度の導入から17年、人材確保の問題に今、多くの施設が頭を悩ませています。この現状をどうご覧になっていますか？

武内 先日、ある特別養護老人ホームで1週間ほどインターンとして実際に働き、現場での人材不足を痛切に感じました。しかし、工夫の余地

はあるとも思っています。ひと口に「介護人材」と言っても、上をめざしたい人もいれば現場での仕事にずっと従事したい人など、さまざまです。それぞれのキャリアに応じた対応を行っていくのが重要だと思いますし、国と事業者が協働して取り組むべきでしょう。

はあとも思っています。ひと口に「介護人材」と言っても、上をめざしたい人もいれば現場での仕事にずっと従事したい人など、さまざまです。それぞれのキャリアに応じた対応を行っていくのが重要だと思いますし、国と事業者が協働して取り組むべきでしょう。

さらに詳しく知りたい方は、ホームページにアクセスしてください。

そのだ修光

検索

または、<https://sonodashuko.com/>



公式LINEアカウント：

<https://page.line.me/psd1500s>

LINEの「友だち追加」より

友だち登録をお願いします！

